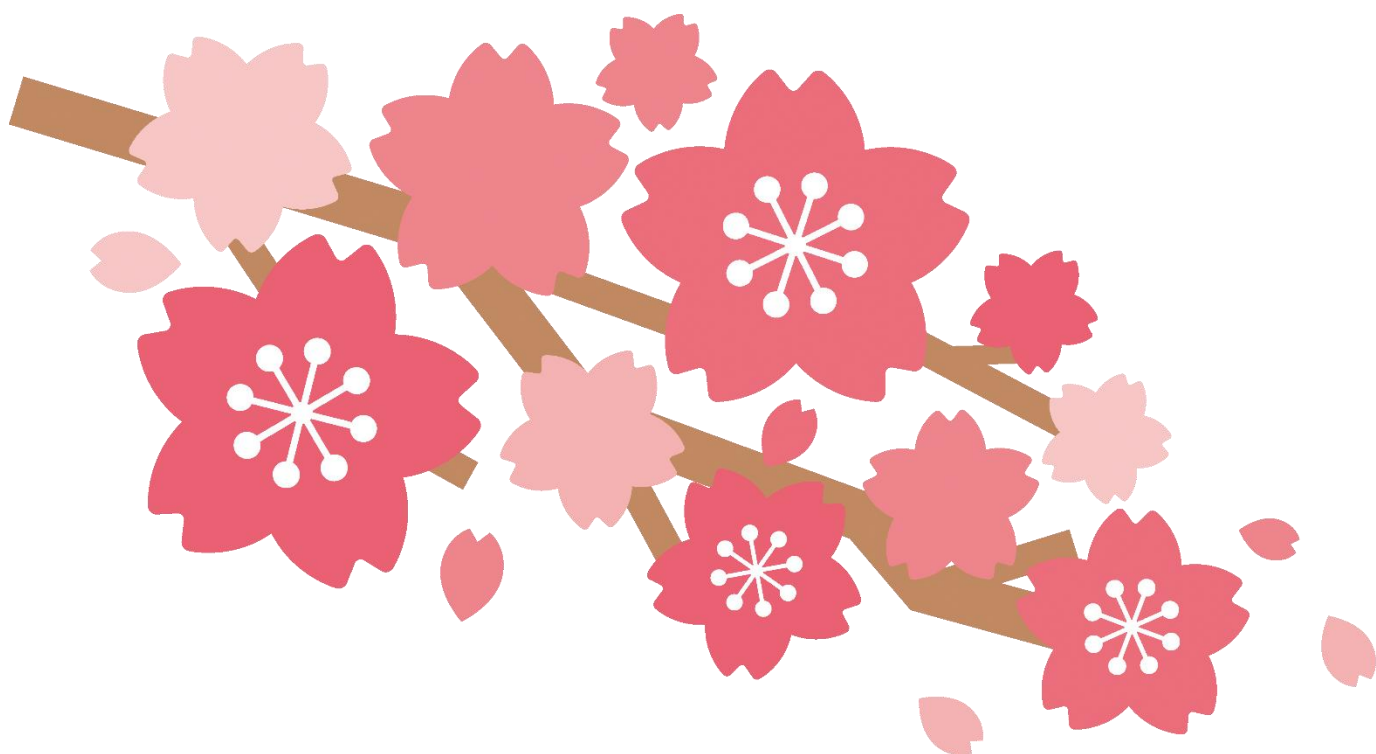


第89号 春号 発行月：令和8年4月

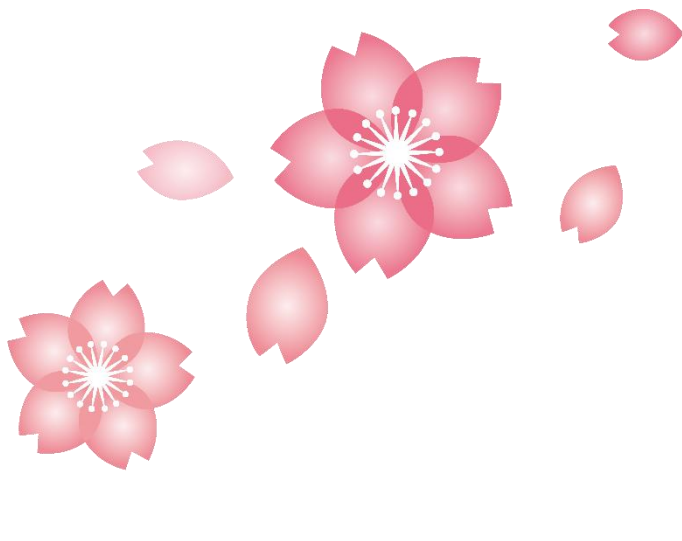
四天王寺和らぎ苑 季刊誌

和らぎ苑



もくじ

- 1.新年度のご挨拶
- 2.新任のご挨拶
- 3.表現活動
- 4.取り組み NOW!



新年度のご挨拶

施設長 塩川 智司



例年より寒かった3月から桜咲くよい季節となり、心あらたに新年度を迎えることができました。和っはっはっから新年度のご挨拶を申し上げます。

四天王寺和らぎ苑に赴任して10年が過ぎ、この4月で11年目に突入です。和らぎ苑赴任前に、前施設長の山野先生に、私が施設長になったら何をすればよいですか？と伺ったところ先生は、一つは、障がいのある子たちを“愛”もってほしい。もう一つ、職員同士が仲良く働ける職場にしてほしいと仰ったのを思い出します。そして2016年4月に着任して感じたことは、それまで35年間働いてきたどの施設よりも、和らぎ苑は温かな施設であることでした。しかし当時、職員が心をつにして立ち向かわなければならぬ大きな問題がありました。このために私は、和らぎ苑の職員、そしてご家族に目指していただきたい目標『和らぎ苑の誓い』を提唱いたしました。以下の3点です。

その1：和らぎ苑は一つの家族。“和”で結ばれた大きな家族。

その2：職員は専門職(プロフェッショナル)として、誠心をもって職責を果たす。
すべては入所者さんの笑顔のために。

その3：ご家族も、ご本人を支える大切なパートナー。の3点です。

現在、玄関に掲示しています。この『和らぎ苑の誓い』を今一度唱えたいと思います。それは、この10年さまざまなことがありましたが、中でも一番の出来事がコロナ禍です。コロナ禍では向かい合って会話すること、集まることを制限しました。勤務以外でもSNS以外の交流も控える風潮の中、ご利用者の高齢化、障がいの重症化、医療・介護度の重度化がすすみ業務負担が増える中、従前に増して必要な連携に支障が起こってきていると危惧するからです。限られた職員力を有効に発揮するためにはなにより連携が必要です。連携とは、目的を共有すること、双方性に連絡し合っていること、協力体制が取れていること（前提として役割分担が明確であること）の3つの要素が揃っていることで、そのベースに、なにより互いにリスペクトし合っていることが大切です。

わたしたち四天王寺和らぎ苑の職員は、和で結ばれた一つの“家族”、チームとして、協力し合ってご利用者、ご家族の笑顔を支えてゆきたいと願います。皆さん今年度もどうぞよろしくお願いたします。

新任のご挨拶

小児外科 出口英一



もうすでに期末月に突入してしまっ、ご挨拶が遅くなっておりますが、令和7年度4月に入職しました出口英一です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

これまでは、京都の病院で小児外科医として仕事をしていたので、福祉施設での勤務はある意味「初体験」です。どうぞ、よろしくご指導のほどお願いいたします。

本誌には、初めて投稿させていただきますので簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれは昭和30年、現在満70歳、古希という節目の年に入職して新たな職場人生を歩みだしたことになり、不思議なご縁があったことを思います。昭和55年に京都府立医科大学を卒業し、東京の順天堂大学医学部の小児外科に入局。関東で7年間、小児外科医としての訓練を受けてから母校の大学付属病院小児外科に入りました。大学で10年間過ごした後、当時国立療養所といわれた兵庫県の青野原病院勤務を経て、前の職場である京都第一赤十字病院に移りました。青野原病院には、重症心身障がい児施設も併設されていて、その際に小児外科医として重心の医療に触れる機会がありました。今回、和らぎ苑に入職できたことは、何かのご縁があって結び付けていただいたような気がしています。

長らく「小児外科専門医」として働いてきたという、ささやかな自負も持っていましたので、当苑でも小児外科医としてキャリアを積むことを許していただいた塩川施設長先生には、とても感謝しています。すでに1年近く勤務してきておりますが、入所者の皆様の生活介護までも含む当苑での医療活動においては、未だに初体験といえる事柄が次々と生じてきて、まだまだ勉強をしていかなくてはならないと思いを新たにしているところです。これから、利用者様方の笑顔がたくさん見られるように、いままで培ってきた医療的なスキルも生かしながら働いていきたいと思っております。まだまだ、人生に希望を持ちながら、和らぎ苑の皆様とともに歩んでいきたいです。よろしくお願いいたします。

表現活動について

和らぎ苑の表現活動では、本人の動きを最大限に尊重したサポートをしながら介助者と一緒に取り組んでいます。どうしてこの絵の具、どうしてそのサポートなど様々な介助者と表現活動を共にすることで様々な作品が生み出されています。作品を描くだけでなく、表現活動の時間はお互いで密にコミュニケーションを取りながら、一緒に試行錯誤し時間を過ごすようにしています。

完成した作品はすべて保存し、すばるホールや地域の様々な場所で展示。その作品を鑑賞するために外出につなげるよう苑全体で取り組んでいます。表現活動を通じて社会との接点を持ち、地域の方々と共に過ごす時間を今後も生み出してまいります。 OT 木村基

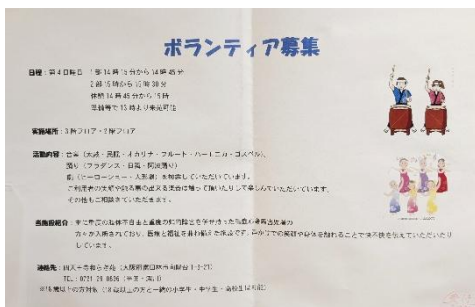
取組NOW!!

当苑の現在進行形！取り組み NOW！
今回は、当法人の研修で取り組んだ職員一人一人のアクションプランから、職員お二人の取り組み NOW！と調理栄養からもご紹介します。

今回、私は「掲示板の活用」、「ご利用者を知る、知ってもらう」、「施設を知る、知ってもらう」、などをキーワードとし、SNS やブログのような内容を掲示する四天王寺和らぎ苑だけの掲示型ブログ『ココだけブログ』（通称ココブロ）をアクションプランとしてさせていただきました。現在、1階外来前のホワイトボードには運動会やウォーターベッド、表現活動といったレクリエーション、「冬祭り」や「和敬の集い」といった当施設の行事、ボランティアさんのイベントなど、写真と文章を使って、入所サービスのご利用者の普段の生活場面では見られない、その一瞬一瞬の表情や様子を掲示し、発信しています。毎月1～2回更新しています。当施設に来苑される全ての方々に入所サービスのご利用者を知っていただく機会になればと思っています。お時間ありましたら是非見て下さい。どうぞよろしくお願いいたします。



帆足



ご利用者に楽しんでいただくボランティアをテーマに進めて行きました。以前来苑されたボランティア（フラダンス、ヒーローショー、ハーモニカ、和太鼓）ではなく、募集ポスターを作成し、新規での来苑を目指していました。課題として色んなジャンルや参加型ボランティアも探し、ボランティアの立場に立ってどうしたら行きたくなるか考えています。引き続き、募集を行っていますの

半田

近年、行事の献立を考える際『世界の料理』をテーマにして欲しいというご意見から、お料理でその国の雰囲気を感じていただけるように、普段なじみの少ない珍しい料理を提供しました。2024年夏のパリオリンピックの時はフランス料理、2025年の大阪・関西万博の開催中は、日本が世界に誇る食材や調味料25種類を使った献立に挑戦しました。今後も調理・栄養の面から、ご利用者の皆様に喜んでいただける食事の提供に取り組んで参ります。



海老